

「ウェブで繋がる、やがてリアルで交わる」

令和3年度本会員代表幹事
鮎澤 良史(内閣府)

【1.はじめに】

世界中でコロナ禍に見舞われ、我が国では「緊急事態宣言」が継続中(R3.9時点)ですが、設立40年の節目を迎える浩志会においても、既に11月の「第39回 創立記念パーティ」を順延するなど大変厳しい状況です。

このため、新年度の本会員活動については、当面ウェブによる活動が中心にならざるをえませんが、やがてリアルでの交流も再開できれば、コロナ以前とは異なった新たな方法による浩志会活動が行われていくものと想定しています。

【2.今年度の本会員活動方針】

以上の状況を踏まえながら、今年度の方針は、年内を目途とした活動(1)と、来年にも人流が再開して以降(2)との2つに分けています。

(1) 年内2021(R3)の活動

コロナ禍を逆手に取り、ウェブ会議システム(ZOOM等)の利点である距離を縮めるという効果を最大限活用するため、次の①と②をお願いします。

- ① 予めスマホ・タブレット・自宅PC等にZOOMをインストールしておき、時間が来たら、とりあえず招待状をポチって繋がる。
- ② ウェブなら遠隔地の会員や(時差はあるものの)海外駐在の皆さんも参加可能なので、積極的に話題提供をしていただき、見識を広める機会とする。

(2) 年明け2022年(R4)を見据えた活動(見込み)

当然、実際のコロナウイルスの流行状況等を踏まえながらになりますが、

- ① やがて、設立記念パーティをはじめ、各種イベントやサークル活動を再開し、従来の活動に戻していく。
- ② OB、本会員、研究会員の三世代交流を進め、異世代間の議論を通じて、我が国の現在・過去・未来に対する理解を深める。
- ③ 各グループ活動でも、ウェブ+リアルにより量的にも質的にも交流を活発し、各々の立場からポスト・コロナの世界における新たな日本の姿を語る。

これから、副代表幹事の近藤純子さん(DNP)と園部晶子さん(野村HD)、今年度の本会員幹事団のメンバー、そして事務局の方々のご協力をいただきながら、会員の皆さんが、浩志会でより良い1年を過ごせるよう努めてまいりますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

【3. 本方針を出すに至る背景・思い】

以下では、余談含みで1.と2.の背景や思い等を補足いたします。

年内の2.(1)①でウェブをメインにした理由として、私自身の経験で恐縮ですが昨年度Aグループの幹事を担当しており、地方出張や外部説明等でどうしても参加が難しい回もありましたが、公共交通機関による移動中でもとりあえずスマホで参加していました。

浩志会の目的¹は相互理解の促進、端的に言えば交流であり、当然リアルでお酒も飲みながら議論することがベストなものの、テレワークの社会目標が7割、更にはほぼテレワークという会社様も多いので、ウェブが中心にならざるを得ないと考えています。

また、同じく②の方では、海外や遠隔地の皆さんには、積極的に話題提供も頂きたい旨を書いています。これは、先月の夏期研修会の際に、ZOOMによる海外状況のご説明が大変好評で、その後の「ブレイクアウトルーム機能」による議論も活況を呈したことから、この熱気を本会員活動にも拡張したいと思いました。

更に、ウェブでやるなら、本会員にせよ、外部講師にお願いするにせよ、東京圏に在住していない方からお話いただくと新たな知見が得られやすいと考えます²。

コロナ後の2.(2)全般については、世界的にはポスト・コロナ時代が到来し、我が国でもテレワークがメインとなるような働き方改革は既に進展している一方、今後の社会的条件等は確実に悪化³します。このように変革が必要な時期だからこそ、次世代に渡す将来について議論する好機ではないかと思っています。

その一環として、OB会員の知見・経験に基づくご意見も何うことも有益と考え、特に②の三世代交流と、③のポスト・コロナという例を出しましたが、社会的なテーマを議論するには、ウェブよりは直接対話していくことで、よりよい意見交換が可能になるのは間違いないので示しております。

浩志会は、官庁・大企業出身の現役世代のメンバーが、個人としての在り方、社会との接し方、国家観、世界の見方等について勉強でき(しかも基本無料!)、かつ意見交換もするという、日本中を見回しても真に希少な場です。

私自身は、第1火曜日の「本会員幹事会」に加えて、第3水曜日には従来から参加している「日本のこころ」⁴、更に第4火曜日の昼も浩志会での会議があるようですが、プラスワンとして、毎月一つは面白そうな活動にお邪魔し、週一ペースで浩志会に関わりたいと思います。その際には是非皆さんとも交流させてください⁵。

(以上)

1 「総合的かつ国際的視野に立つて日本の将来を担う官民の人材の資質向上及び相互理解の促進を図るため、各種啓発、養成活動を実施するとともに、時代の要請にかなう人材の要請に関する調査研究等を行い、もって我が国社会の発展と国際社会への一層の貢献に寄与する」

2 各グループの月幹事さんの判断が優先されますので、あくまでお願いベースです。

3 例えば、財政負担以外でも、今の田舎は高齢化率(4割弱)で、65歳以上人口が半分以上の自治体は6村ですが、30年後には東京が田舎の高齢化率、65歳以上人口が半分以上の自治体は500弱の町村となることが確実など、コロナに加えて担い手がいないという二重の意味で他国よりも変革は必須です。

4 正式名称は、『日本のこころ』の源流を探り未来を共創する懇話会」です。毎回良い気付きをいただいております。

5 本方針は、あくまで個人の意見と感想で、浩志会及び私が属する組織を代表したものではありません。